

特別支援教育を担う教員の専門性向上に関する課題と展望

外部専門員を活用した若手教員研修の取組から

企画者・司会者	綿引清勝	（いわき短期大学幼児教育科）
話題提供者	高橋昌樹	（東京都立しいの木特別支援学校）
	渡邊寛子	（東京都立しいの木特別支援学校）
	山田浩輝	（東京都立しいの木特別支援学校）
	大澤あかり	（東京都立しいの木特別支援学校）
指定討論者	島田博祐	（明星大学教育学部）

KEY WORDS: 特別支援教育 人材育成 外部専門員

【企画趣旨】

平成 19 年より特別支援教育が全面実施となり、10 余年が経過した。この間、多様化、共生社会、インクルーシブ教育、合理的配慮等のキーワードが多く聞かれるようになってとともに、特別支援学校における外部専門員の導入など、学校の教育活動に様々なリソースを活用する事例も報告されるようになってきた。さらに近年では、新型コロナウイルスの影響による指導形態の変化など、教育の在り方そのものについても社会の急速な変化への対応が求められている。しかし現状では、このような新しい教育の流れにおいて、教育現場の理解や取り組み、実現化には様々な課題があると思われる。

そこで本シンポジウムでは、特別支援教育を担う若手教員の人材育成に視点をあて、学校現場における研修の有効性や課題、必要とされる資質などについて検討することを目的とした。

【話題提供者の趣旨】

高橋昌樹「外部専門員による若手教員の専門性向上」

本校は、千葉県袖ヶ浦市に所在する 2 か所の福祉型障害児入所施設を利用する児童・生徒のみが通学する、都立特別支援学校である。児童・生徒数は小学部 5 名、中学部 9 名、高等部 17 名、計 31 名。教員数は 24 名と小規模校である。

東京都教育委員会は、「東京都特別支援教育推進計画」において、特別支援教育を推進する体制の整備・充実を目指すため、大学・専門家・塾との連携により、年間を通じて定期的に授業改善支援を実施してきた。知的特別支援学校においては、平成 27 年度から、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士及び心理の専門家等を「都立特別支援学校知的障害教育外部専門員（以下、外部専門員とする。）」として配置し授業改善に取り組んでいる。

本シンポジウムでは、本校での外部専門員を活用した若手教員の専門性向上について、実践報告を行う。

【話題提供者の趣旨】

渡邊寛子「本校における人材育成の現状と課題」

本校は、教員数 24 名のうち、教職経験が 4 年以下の教員が 12 名と半数を占める。主任教諭、主幹教諭は、7 名でありミドルリーダーとして若手教員を育成する人材が少ない現状から、本校の授業力を向上させることが喫緊の課題である。また、OJT 対象者に対して、OJT 担当者が少ないことから組織的に人材育成を図っていくことが難しく、若手教員の年 3 回実施している研究授業は、外部専門員からの指導助言を入れることで授業力向上の推進を図っている。さらに、今年度から全校で実施する研修の企画運営は、学部主任を中心に行うことでミドルリーダーを育成するための

システム作りを設定している。そこで本シンポジウムでは、研究研修部を設けていない本校独自の研修システムについて、昨年度までの取組と今年度の方向性を概説し、成果と課題について報告する。

【話題提供者の趣旨】

山田浩輝「不適応行動がある児童の集団参加」

対象児童は、小学部 4 年生の知的障害を伴う自閉スペクトラム症児で、太田ステージの評価は I - 2 である。202x 年 7 月から、反芻を伴う嘔吐について別室にて個別対応を 2 か月間実施したが、改善が見られなかった。そこで同年 9 月に、本児が集団参加に移行するための方法について助言を受けた。

指導方法は、「教室内で他の活動に取り組む周辺参加等の視点を取り入れる」「スモールステップの尺度を等間隔にする」「本児が失敗感を感じないように配慮する」の 3 点の助言を基に、集団参加へ移行するためのロードマップを作成し、学部の教員と共有した。その結果同年 12 月には、ほぼすべての授業において集団参加が可能となった。仮に本ケースを一人で抱え込んでいた場合、思い悩んでいたが、外部専門員が介入することで、自らの肩が軽くなるとともに、本児の行動変容が見られた事例について報告する。

【話題提供者の趣旨】

大澤あかり「外部専門員を活用した授業改善の実践」

教員 1 年目では、自閉症を伴う重度知的障害児 4 名を対象とした家庭科の授業において、生徒の主体性や楽しさを引き出す方法が分からず、生徒が教室から出てしまう等の問題が生じた。そこで外部専門員から、①発問や目標設定等の具体的な指導技術 ②実態把握や課題分析に関する専門的な理論 ③指導案の書き方など授業づくりの基礎的な知識の 3 点について多角的な助言を受け、教材や授業の改善を行った。改善の結果、生徒が主体的に活動に取り組む時間が増え、生徒が楽しく学べる授業に変わっていった。

本シンポジウムでは、外部専門員を活用した授業改善の過程と成果、及び今後の課題について報告する。

【指定討論者の要旨】

島田博祐：以下の 4 つの論点から進める予定である。

管理職である高橋・渡邊先生の報告に関しては、(1) 当該校の若手研修における外部専門員活用の校内的・対外的な意義と課題、(2) 他校と比しての利用形態の独自性等。若手教員の実践報告にあたる山田・大澤先生には、(3) 適応面の指導や授業改善において、役立った面は何か（知識向上面・不安解消などのメンタル面等）、(4) 全体的な校内研修との効果の違い等。内容詳細は発表当日に提示する。
(WATAHIKI kiyokatsu, TAKAHASHI Masaki, WATANABE Hiroko, YAMADA Kouki, OOSAWA Akari, SHIMADA Hirotsuke)